

## 国際医療を担う専門部署の設置と国際化への取り組み

### 国際医療支援室の新設 在沖縄米国海軍病院との合同訓練及び交流

#### 琉球大学病院



#### 国際医療支援室の取り組み

当院は2020年度7月に「国際医療支援室」を新設し外国人患者に対する医療サービスを強化するとともに国際化への取り組みを開始した。

国際医療支援委員会の委員は多職種で構成されており、外国人患者対応に関する問題点や現場のニーズを集約し改善に向けて取り組めるようになった。また、国際医療支援室が中心となって在沖縄米国海軍病院と交流を開始し、合同災害訓練を行うなど国際交流を積極的に進めている。

#### 外国人患者に対する医療サービスの充実および強化

国籍や言語によらず全ての患者に対して安心・安全な医療が提供できるよう、医療文書の翻訳を随時進めており、また外国人患者向けのホームページの充実化にも取り組んでいる。

医療通訳タブレットや外国人患者専用ダイヤルを設置したことで、外国人患者とのコミュニケーションが取りやすくなり、職員の負担軽減とより良い医療提供に繋がっている。さらに英語以外のペルシャ語やベトナム語、韓国語なども利用があり、安心のサービスを提供でき外国人患者から好評である。

#### 海軍病院との連携

当院は2025年1月までに、西普天間基地跡地に移転する予定としており、隣接となる在沖縄米国海軍病院と災害に備えた合同訓練の開催や連携体制の構築を目的として開始した。本年も合同訓練前に当院院長が海軍病院の新任司令官とオンラインで会談した。

2021年12月17日には感染対策を含めた災害訓練（机上訓練）を開催し、災害用電話及びアプリケーションを利用して両施設間で受入可能な患者数や転送が必要な患者数等の情報交換のための通信訓練を行った。今回の訓練では主に災害用電話回線を使用し、アプリケーション利用の課題などが分かり、非常に有意義な訓練となった。今後も定期的開催し連携を強化していく予定である。

#### ハワイ-沖縄医学教育フェローシップ

2012年度より沖縄県の地域医療再生基金の事業計画の一環として、ハワイ大学医学部の協力の下、沖縄の臨床研修病院群（RyuMIC群、県立病院群、群星沖縄群）の若手指導医を育成するための医学教育フェローシッププログラムを開始し2016年度からは沖縄県地域医療介護総合確保基金にて実施している。将来の沖縄の臨床教育のリーダーとなる医師を育成するためにハワイ大学医学部と共同で開発された本プログラムでは、県内若手指導医が臨床教育力を高めるとともに、お互いの連携を深め、指導医間のネットワークを構築することを目指している。Web会議システムを介して、ハワイ大学教員と英語での質疑応答を行い、国際的な資質も磨くことができる内容となっている。



#### オンライン研修会への参加

厚生労働省補助事業「外国人患者受入れに資する医療機関認証制度等推進事業」オンラインセミナー等に積極的に参加し、他病院の外国人患者対応について視聴し、さらに県外の医療機関と意見交換を行い、問題点や今後取り組むべき課題を共有し合う貴重な機会となった。

#### 英会話研修の継続実施

以前は沖縄県からの全額補助による職員向けの英会話研修を開催していたが、補助終了後も研修を継続し2021年度も2週間に1回開催している。主に外来での問診、検査や窓口対応の際に使われる英会話を学んでおり、実践的な医療英会話力を身につけることを目的としている。